

①我が国における米の状況

主食用米等の令和7/8年及び令和8/9年の需給見通し(令和7年10月公表基本指針)

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

		玄米ベース (万トン(玄米))	精米ベース (万トン(精米))
令和7 /8年	令和7年6月末民間在庫量	A	155
	令和7年産主食用米等生産量	B=C+D	748
	うち生産者ふるい目幅以上	C	715
	うち生産者ふるい目幅未満のうち、 主食用米への供給見込量	D	32
	令和7/8年政府備蓄米供給量	E	23
	令和7/8年主食用米等供給量計	F=A+B+E	926
	令和7/8年主食用米等需要量	G	697~711
令和8年6月末民間在庫量	H=F-G	215~229	191~205

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し】

		玄米ベース (万トン(玄米))	精米ベース (万トン(精米))
令和8 /9年	令和8年6月末民間在庫量	H	215~229
	令和8年産主食用米等生産量	I	711
	令和8/9年主食用米等供給量計	J=H+I	926~939
	令和8/9年主食用米等需要量	K	694~711
	令和9年6月末民間在庫量	L=J-K	215~245

注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

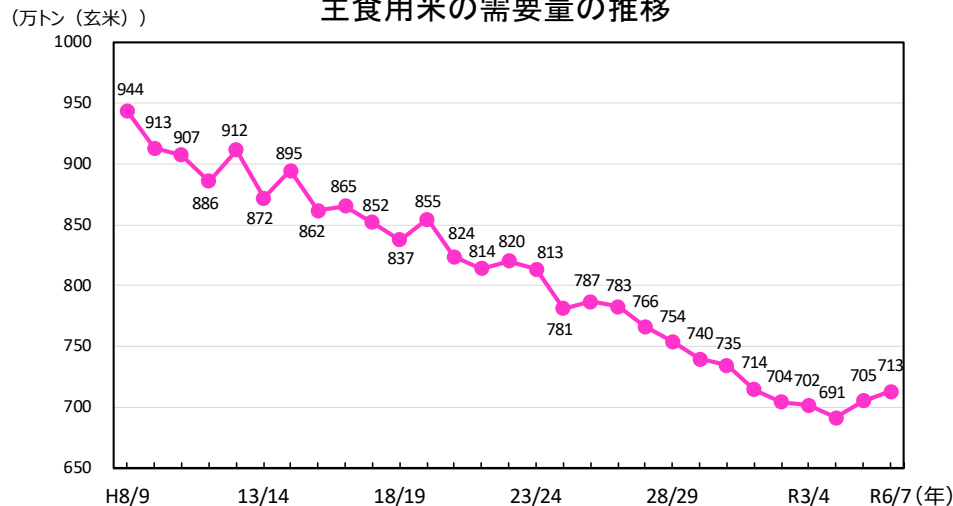
※1：事前契約による令和8年産備蓄米の政府買入れは21万玄米トン进行予定。これは上記「令和8年産主食用米等生産量」には含まれていない。

※2：政府備蓄米の放出（全体で約59万玄米トン）に係る買戻し及び買入れは、今後の需給状況等を見定めた上で行う。

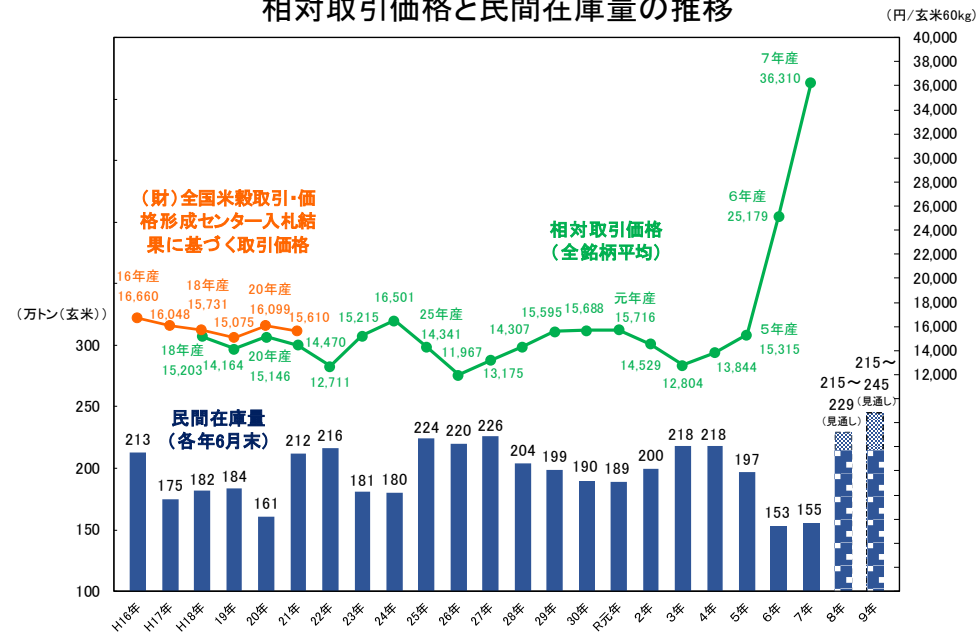
※3：上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式や枠外の民間輸入（令和6/7年：約4万実トン）による輸入米は含まれない。

※4：需給の見通しについては、今後の生産量や需要量の把握に努め、必要に応じて柔軟に対応。

主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移



注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（7年産は8年2月の速報値）の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

水田の利用状況の推移(平成25年産～令和7年産)

- 主食用米の需給動向にあわせて、加工用米、飼料用米等の作付状況も変化。
- 令和7年産では、主食用米の需給動向を踏まえ、主食用米の作付けが大きく増加。

〔平成25年産〕 水稲作付面積:165万ha

加工用米:3.8万ha ※、()は飼料用米のみの面積



〔26年産〕 水稲作付面積:164万ha

加工用米:4.9万ha



〔27年産〕 水稲作付面積:162万ha

加工用米:4.7万ha



〔28年産〕 水稲作付面積:161万ha

加工用米:5.1万ha



〔29年産〕 水稲作付面積:160万ha

加工用米:5.2万ha



〔30年産〕 水稲作付面積:159万ha

加工用米:5.1万ha



〔令和元年産〕 水稲作付面積:158万ha

加工用米:4.7万ha



〔2年産〕 水稲作付面積:158万ha

加工用米:4.5万ha



〔3年産〕 水稲作付面積:156万ha

加工用米:4.8万ha



〔4年産〕 水稲作付面積:155万ha

加工用米:5.0万ha



〔5年産〕 水稲作付面積:153万ha

加工用米:4.9万ha



〔6年産〕 水稲作付面積:151万ha

加工用米:5.0万ha



〔7年産〕 水稲作付面積:152万ha

加工用米:4.4万ha



※ 水稲、麦、大豆:「耕地及び作付面積統計」、主食用米:「作物統計」、加工用米、飼料用米等(飼料用米、米粉用米、WCS用稲、新市場開拓用米等):「新規需要米等の用途別作付・生産状況の推移」、備蓄米:地域農業再生協議会が把握した面積

米の用途別・年産別面積の推移(平成20年産～令和7年産)

(単位：万ha)

用途 年産	主食 用米	生産量 (万トン) (生産者使用ふる い目幅ベース)	備蓄 米	加工 用米	新規 需要米	飼料 用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	米粉 用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	酒造 用米	その他
H20	159.6	… (866)	H22年産 までは主 食用米と して生産	2.7	1.2	0.1	0.9	0.0	0.0	—	0.2
H21	159.2	… (831)		2.6	1.8	0.4	1.0	0.2	0.0	—	0.1
H22	158.0	… (824)		3.9	3.7	1.5	1.6	0.5	0.0	—	0.1
H23	152.6	… (813)	1.2	2.8	6.6	3.4	2.3	0.7	0.0	—	0.1
H24	152.4	… (821)	1.5	3.3	6.8	3.5	2.6	0.6	0.0	—	0.1
H25	152.2	… (818)	3.3	3.8	5.4	2.2	2.7	0.4	0.1	—	0.1
H26	147.4	… (788)	4.5	4.9	7.1	3.4	3.1	0.3	0.1	0.1	0.1
H27	140.6	723 (744)	4.5	4.7	12.5	8.0	3.8	0.4	0.2	0.1	0.0
H28	138.1	732 (750)	4.0	5.1	13.9	9.1	4.1	0.3	0.1	0.1	0.0
H29	137.0	708 (731)	3.5	5.2	14.3	9.2	4.3	0.5	0.1	0.1	0.0
H30	138.6	708 (733)	2.2	5.1	13.1	8.0	4.3	0.5	0.4	—	0.0
R元	137.9	706 (726)	3.3	4.7	12.4	7.3	4.2	0.5	0.4	—	0.0
R2	136.6	691 (723)	3.7	4.5	12.6	7.1	4.3	0.6	0.6	—	0.0
R3	130.3	670 (701)	3.6	4.8	17.4	11.6	4.4	0.8	0.7	—	0.0
R4	125.1	639 (670)	3.6	5.0	20.6	14.2	4.8	0.8	0.7	—	0.0
R5	124.2	639 (661)	3.5	4.9	20.4	13.4	5.3	0.8	0.9	—	0.0
R6	125.9	652 (679)	3.0	5.0	17.3	9.9	5.6	0.6	1.1	—	0.0
R7	136.7	718 (747)	—	4.4	10.8	4.6	4.9	0.4	0.9	—	0.0

注1 主食用米：統計部公表値。括弧書きはふるい目幅1.70mmベースの生産量。備蓄米：地域農業再生協議会が把握した面積。

加工用米及び新規需要米：R6年産以前の面積は取組計画の認定面積。R7年産の面積は取組計画の届出面積。

注2 新規需要米の「酒造用米」については、「需要に応じた米の生産・販売の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米であり、平成30年産以降は取りまとめていない。

注3 ラウンドの関係で、新規需要米の合計と内訳の計が合わない場合がある。

令和7年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和7年産から、生産者の実感に合うよう、生産者が使用しているふるい目幅（1.80mm～1.90mm）で収穫量を公表。
- 令和7年産の全国的水稻の生産者が使用しているふるい目幅ベースの収穫量（主食用）は718万1,000t（前年産に比べ66万2,000t増加）。新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、主食用作付面積が136万7,000ha（同10万8,000ha増）となったことに加え、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、10a当たり収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）が526kg（同7kg増）となったことが要因。全国の作況単収指数は102。
- ふるい目幅1.70mmベースの収穫量（主食用）は746万8,000t（67万6,000t増）。

表 令和7年産水稻の作付面積（主食用）及び収穫量（全国農業地域別）

全国 農業地域	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別						ふるい目幅1.70mmで選別						作況 単収 指数
	実数 ①	前年産との比較			10a当たり収量		収穫量 (主食用(生産者ふるい上米))			10a当たり収量		収穫量 (主食用(生産者ふるい下米含む))				
					実数 ②	前年産との 比較 対 比	実数 ③=①×②	前年産との比較		実数 ④	前年産との 比較 対 比	実数 ⑤=①×④	前年産との比較			
		対 差	対 比	対 差				対 比	対 差				対 比			
	ha	ha	%	kg	%	t	t	%	kg	%	t	t	%			
全 国	1,367,000	108,000	109	526	101	7,181,000	662,000	110	547	101	7,468,000	676,000	110	102		
北 海 道	90,400	6,700	108	549	98	496,300	25,900	106	574	97	518,900	23,400	105	98		
東 北	361,100	41,300	113	557	100	2,012,000	236,000	113	583	100	2,103,000	238,000	113	101		
北 陸	187,700	11,900	107	517	101	970,300	74,300	108	541	101	1,015,000	76,200	108	101		
関 東・東 山	260,700	25,700	111	524	99	1,366,000	122,000	110	541	99	1,411,000	129,000	110	100		
東 海	87,000	3,600	104	490	103	425,700	30,100	108	505	103	439,000	31,500	108	103		
近 畿	93,500	2,900	103	507	104	473,900	31,900	107	527	104	492,700	33,100	107	105		
中 国	92,700	2,300	103	519	104	482,100	32,100	107	538	105	499,400	36,400	108	105		
四 国	43,700	1,400	103	495	105	215,800	16,400	108	505	105	220,000	16,400	108	106		
九 州	149,500	11,300	108	492	106	736,900	93,700	115	513	105	767,400	91,400	114	106		
沖 縄	597	40	107	311	97	1,860	80	104	314	96	1,870	50	103	99		

- 注：1 作付面積（主食用）（①）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量（②）については、都道府県ごとに、過去5か年に生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 3 収穫量（主食用（生産者ふるい上米））（③）及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米を含む））（⑤）については、都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
- 4 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

- 水稻収穫量調査について、統計値が生産現場の実感とかい離があるとの声が多かったことから、生産者の方々や生産者団体、地方自治体と意見交換を実施し、要因を把握。収穫量、作況指数などについて様々なご意見。
- このうち、作況指数については、令和7年産より、近年の高温等気候変動を十分反映するとともに、収穫量全体を対比したものでないことを明確化した指標である作況単収指数に移行。

○作況指数から作況単収指数に移行（10月10日公表分～）

旧

～令和6年産

作況指数

収穫量全体を平年と比較した
ものとの認識が多い

$$= \frac{10a\text{当たり収量}}{10a\text{当たり}\text{平年}\text{収量}} \times 100$$

(過去30年のトレンド)

直近の収量と比較する生産者の実感とズレ

新

令和7年産～

作況単収指数

収穫量全体を対比したものでないことを明確化

$$= \frac{10a\text{当たり収量}}{10a\text{当たり}\text{平均}\text{収量}} \times 100$$

(前年産までの5年中3年平均)

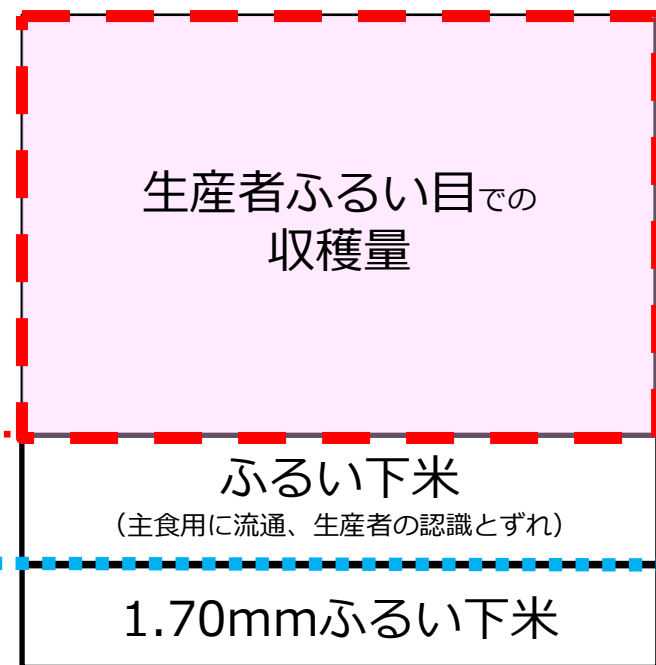
- 令和7年産より生産現場の認識を踏まえ、ふるい目を見直し、新たに生産者ふるい目での主食用収穫量を公表。
- また、高温等が米の供給量に影響を与え得ることを踏まえ、坪刈りサンプルから把握できる白未熟粒や着色粒等の割合を参考情報として公表。

○ふるい目幅の見直し（10月10日公表分～）

生産現場の認識を踏まえ、都道府県ごとに最も使用されている**生産者ふるい目（1.85、1.90mm等）**で新たに主食用**収穫量を公表**しつつ、引き続き**1.70mmの収穫量も公表**。

生産者ふるい目
(1.85mm等)

1.70mm

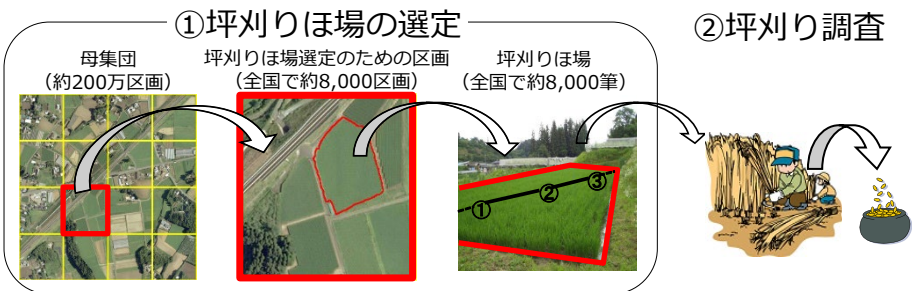


○白未熟粒、着色粒等の割合公表（11月18日公表分～）

坪刈りしたサンプルを器械にかけ、**白未熟粒、着色粒、胴割れ粒等の割合**を生産者の選別によってはじかれることとなる米の割合の**参考情報として公表**。

- 約8,000筆の坪刈り調査に加え、**令和7～8年産において、試行的に生産者等から収穫量データを収集するほか、JA等の乾燥調製施設のデータ**について統計的に活用可能か検証。
- 調査手法を検証した上で、**令和9年産から、生産者等の収穫量データを活用した調査を本格導入**（調査対象の面積：2千ha→13万ha（全面積の約1割）、数：8千→2.1万）し、**精度を2倍に高めることを目指す**。

○現在：筆ごとの坪刈り調査



約8,000筆（約2千ha）の結果から126万ha※の単収を推計

※令和6年産主食用作付面積。

- ・実際に収穫しているコンバインでの収穫量を調査
- ・面積カバー率の飛躍的拡大

○今後：生産者等の収穫量データの収集

7年産から試行的に生産者等の収穫量データを収集し、調査手法を検証

令和7年産：約600経営体（約2.6万ha）

令和8年産：約5,500経営体（約10.2万ha）

JA等のデータが活用可能か検証

本格導入

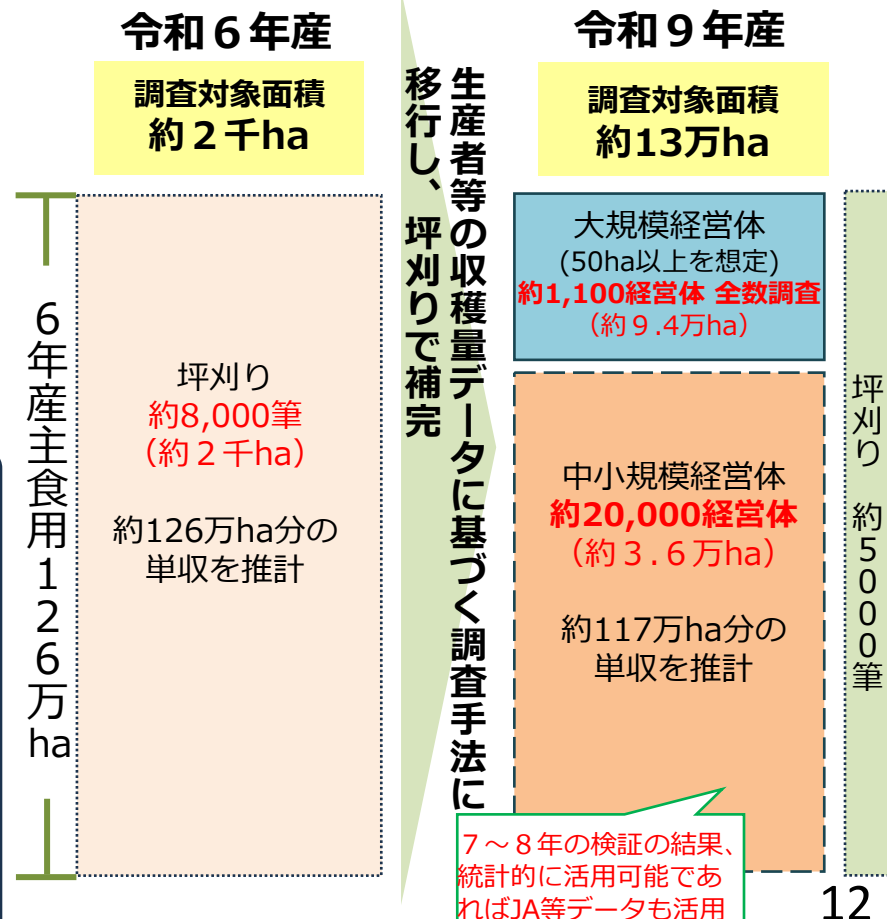
※統計委員会の要承認

令和9年産：約21,000経営体（約13万ha）のデータから単収を推計

※生産者に加え、JAの乾燥調製施設等のデータが統計的に活用可能であれば、活用。

水稲作付面積の1割（約13万ha）をカバーし、調査対象数増（約8,000→約21,000）により精度を2倍に高めることを目指す。

○生産者等の収穫量データによる統計作成の取組イメージ



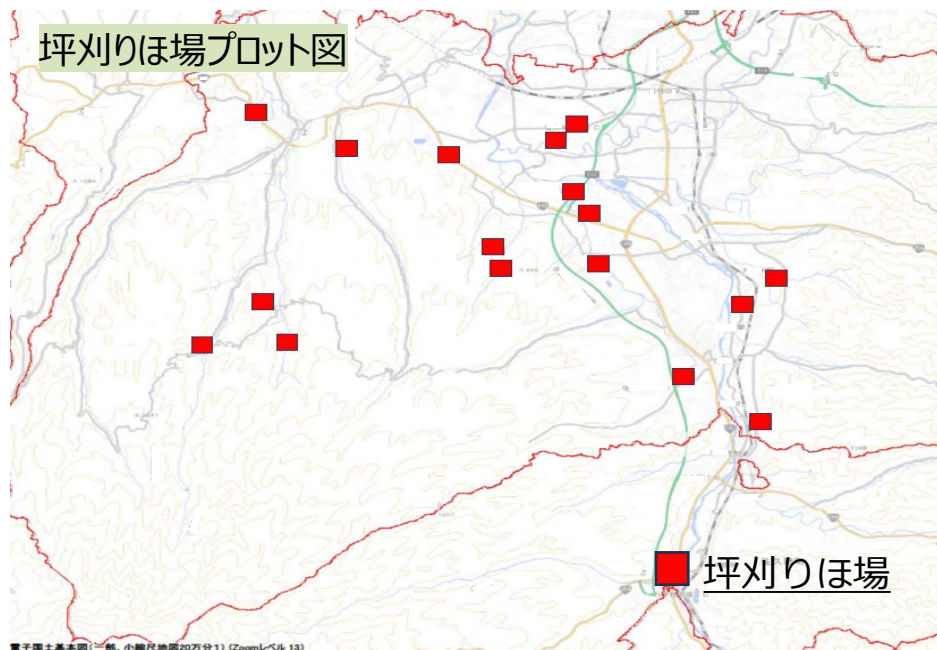
- 坪刈りほ場の場所を関係機関に情報提供し、気象や病虫害の被害情報等をきめ細やかに収集し、調査結果に反映することで、調査精度を向上。
- **令和7年産から県や農業団体等の関係機関からの情報収集を強化するほか、令和8年産から生産者からのリアルタイムデータの収集・活用を検討。**

○ 坪刈りほ場の場所を関係機関へ情報提供、被害情報等をきめ細かく収集

令和7年産から開始

地図に坪刈りほ場をプロットし、関係機関（県、JA、農業共済）に提供。

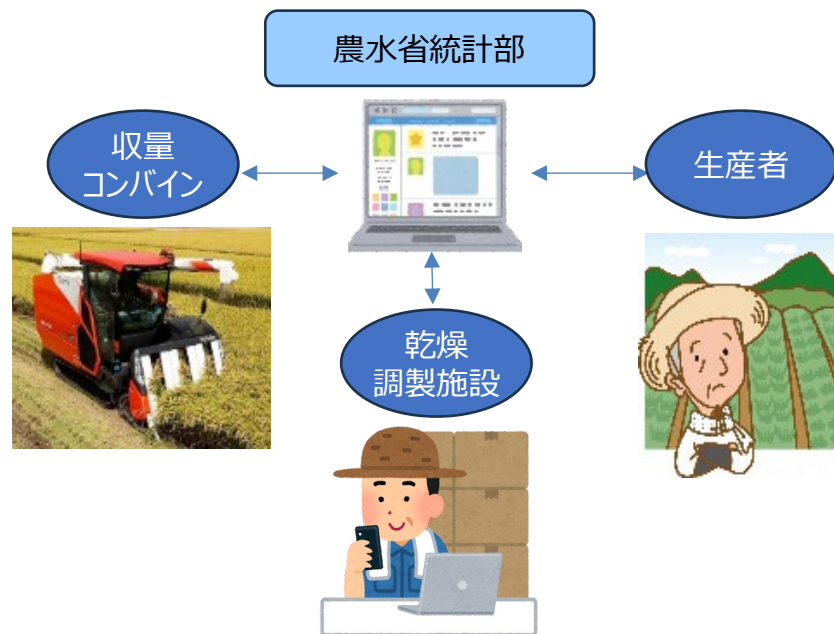
調査時期ごとの意見交換を通じて、坪刈り調査が実施されない地域の被害による減収を着実に把握し、調査結果に反映。



○ 生産者等からのリアルタイムデータの収集・活用の検討

令和8年産からの実施を検討

大規模生産者等からの収量コンバインの収穫量や高温障害等の気象被害の状況、カメムシ等による病虫害の状況などのデータを提供いただき、調査結果へ反映する仕組みを検討。



- 人工衛星データ・AIを活用した収量予測のための実証研究を新たに実施し、**将来的な日本全国全ての作付地の人工衛星データを解析する全面積調査を志向し、収量把握の実証研究を実施。**

○ 人工衛星データ・AIを活用した収量予測

令和7年度

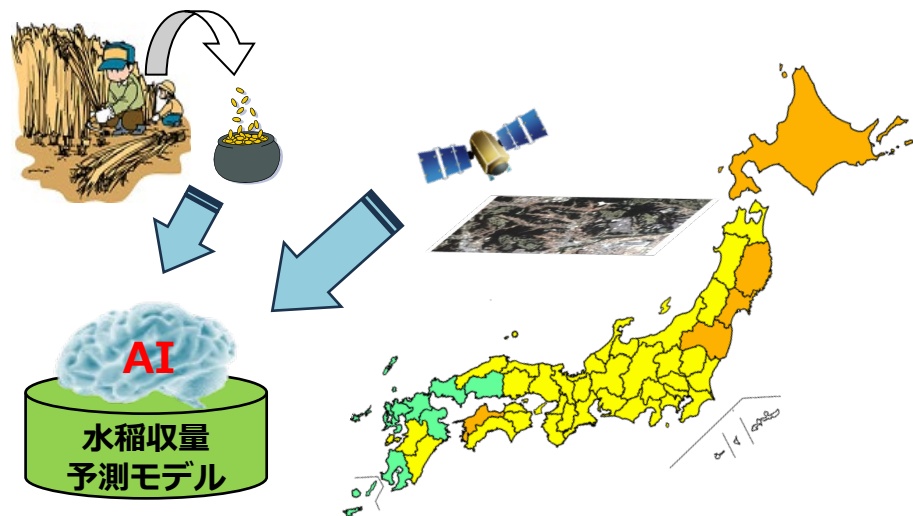
ITベンダーを公募し、ほ場毎の収量データを提供し、人工衛星データ・AIを活用した収量予測の取組を開始（9社）。

今後の実証研究の取組

令和7年度の取組結果を踏まえ、有望な技術について実証研究を実施し、予測精度を向上。

【収量予測モデルイメージ】

人工衛星画像やデータと、坪刈り調査結果をもとに収量予測モデルを作成し、水稻の収量を予測。



令和7年産の水田における作付状況（令和7年9月15日時点） ①

- 令和7年産の主食用米の作付面積は、前年実績（125.9万ha）から**10.8万ha**（6月末時点の作付意向から**0.4万ha**）増加し、**136.7万ha**となった。
- 戦略作物等の作付面積は、いずれの品目も減少するとともに、畑地化面積については、0.8万haとなった。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

年産	主食用米	備蓄米	戦略作物等									
			加工用米	新規需要米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	麦	大豆	飼料作物 そば なたね	戦略 作物等 合計面積
H30年産	138.6	2.2	5.1	13.1	0.4	0.5	8.0	4.3	9.7	8.8	10.2	47.0
R元年産	137.9	3.3	4.7	12.4	0.4	0.5	7.3	4.2	9.7	8.6	10.2	45.6
R2年産	136.6	3.7	4.5	12.6	0.6	0.6	7.1	4.3	9.8	8.5	10.2	45.6
R3年産	130.3	3.6	4.8	17.4	0.7	0.8	11.6	4.4	10.2	8.5	10.2	51.2
R4年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	9.9	54.9
R5年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	8.5	53.1
R6年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	7.4	48.3
R7年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	6.7	38.8
対前年差	10.8	▲ 3.0	▲ 0.6	▲ 6.5	▲ 0.2	▲ 0.3	▲ 5.3	▲ 0.8	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 9.5
畑地化面積	—	—	—	—	—	—	—	—	0.1	0.1	0.3	※ (0.8) 0.5

注1：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）のR6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。R7年産は取組計画の届出面積。

2：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

3：備蓄米は、R7年産米の入札を中止。R6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

4：R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。また、戦略作物等合計面積欄の0.8万haについては、麦、大豆、飼料作物、そば、なたねのほか、高収益作物等を加えた面積。

5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

令和7年産の水田における作付状況（令和7年9月15日時点）②

(ha)

都道府県	主食用米			戦略作物等													【参考】 R7年産 畑地化 面積		
	①	【参考】		加工用米	前年産からの増減	新規需要米	前年産からの増減	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	その他	麦	大豆	飼料作物	そば		なたね	戦略作物等 合計
		前年産 (6年産) ②	増減 ①-②																
全国計	136.7万	125.9万	10.8万	44,190	▲ 6,007	107,502	▲ 65,288	9,003	3,514	46,004	48,896	84	94,809	74,900	43,840	22,151	533	387,923	7,800
北海道	90,400	83,700	6,700	8,103	1,303	7,553	▲ 2,901	2,114	93	2,305	3,042	-	29,659	14,763	6,980	4,775	336	72,169	5,029
青森	43,700	37,200	6,500	344	▲ 336	5,233	▲ 1,560	292	16	4,248	676	-	475	4,254	2,548	853	2	13,709	343
岩手	46,900	43,100	3,800	798	▲ 479	5,267	▲ 2,520	350	19	2,894	2,004	1	3,332	3,716	5,412	532	12	19,069	244
宮城	65,300	58,400	6,900	1,810	865	6,464	▲ 4,979	815	56	3,330	2,261	2	2,243	8,570	4,532	365	0	23,984	153
秋田	81,200	72,200	9,000	5,581	▲ 2,838	2,451	▲ 2,189	453	171	809	1,016	2	117	7,328	1,637	3,391	-	20,504	144
山形	57,100	52,400	4,700	4,698	390	4,847	▲ 1,764	450	53	3,109	1,230	5	100	4,049	2,072	3,652	2	19,419	809
福島	67,000	56,500	10,500	946	518	2,423	▲ 5,836	98	20	1,440	865	0	367	804	1,523	1,297	103	7,465	113
茨城	66,700	59,900	6,800	1,082	▲ 209	5,716	▲ 6,454	898	98	4,173	546	1	3,571	656	434	425	0	11,884	110
栃木	58,100	49,000	9,100	1,693	▲ 219	7,190	▲ 7,666	48	176	5,014	1,952	-	6,632	360	2,555	1,206	6	19,642	103
群馬	14,700	12,800	1,900	206	▲ 1,150	923	▲ 956	3	120	242	557	-	1,405	97	153	15	-	2,798	13
埼玉	30,600	28,400	2,200	44	▲ 100	1,273	▲ 1,896	19	314	816	123	-	2,222	299	150	100	1	4,089	2
千葉	53,100	48,300	4,800	1,514	▲ 558	3,159	▲ 4,958	81	42	2,065	971	-	429	171	239	5	-	5,515	24
東京	112	107	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,840	2,840	0	-	-	9	▲ 6	-	-	7	2	-	2	3	1	0	-	15	0
新潟	108,600	101,400	7,200	6,642	▲ 118	4,234	▲ 2,538	1,546	723	1,334	630	0	226	3,307	277	680	-	15,366	31
富山	33,700	31,200	2,500	1,271	128	2,621	▲ 509	364	258	1,472	528	-	2,923	3,581	301	250	22	10,969	17
石川	22,100	21,200	900	595	67	449	▲ 507	28	189	121	112	-	1,107	798	28	145	-	3,123	1
福井	23,300	21,900	1,400	787	294	1,337	▲ 743	277	85	851	125	-	4,985	45	35	524	-	7,712	3
山梨	4,560	4,590	▲ 30	55	▲ 12	54	▲ 7	-	17	13	24	-	55	83	17	112	-	377	-
長野	30,000	29,000	1,000	423	▲ 333	579	▲ 339	175	36	136	233	-	2,288	564	476	1,925	-	6,255	87
岐阜	20,800	19,600	1,200	987	▲ 153	2,079	▲ 1,229	58	67	1,660	295	-	3,601	241	546	250	6	7,709	23
静岡	14,700	14,400	300	26	▲ 72	614	▲ 500	1	6	290	317	-	170	20	36	24	0	891	7
愛知	25,700	25,000	700	520	▲ 130	1,439	▲ 399	36	292	971	140	-	5,557	47	120	5	4	7,693	-
三重	25,700	24,500	1,200	111	▲ 65	1,296	▲ 1,165	91	33	862	310	-	6,721	115	178	7	4	8,434	1

- 注1：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。
- 2：加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。
- 3：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
- 4：R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。
- 5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

令和7年産の水田における作付状況（令和7年9月15日時点） ③

(ha)

都道府県	主食用米 ①	【参考】		戦略作物等													【参考】 R7年産 畑地化 面積		
		前年産 (6年産) ②	増減 ①-②	加工 用米	前年産 からの 増減	新規 需要米	前年産 からの 増減	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉 用米	飼料 用米	WCS用稲 (稲発酵粗 飼料用稲)	その他	麦	大豆	飼料 作物	そば		なたね	戦略 作物等 合計
滋賀	29,300	27,400	1,900	296	▲ 209	1,104	▲ 1,037	136	37	601	330	-	7,941	620	179	113	9	10,262	18
京都	13,200	13,000	200	355	▲ 174	244	▲ 84	19	10	69	147	-	254	214	51	130	-	1,249	10
大阪	4,100	4,290	▲ 190	0	▲ 0	7	▲ 6	-	1	1	5	-	1	5	1	-	-	15	4
兵庫	33,600	32,200	1,400	563	▲ 104	1,387	▲ 604	193	29	250	910	6	1,810	1,351	648	94	8	5,861	61
奈良	7,750	7,960	▲ 210	4	▲ 7	60	▲ 45	-	13	8	39	-	74	28	4	1	0	170	7
和歌山	5,600	5,680	▲ 80	-	-	5	▲ 2	-	1	2	2	-	9	8	1	2	-	24	0
鳥取	12,000	11,600	400	19	2	855	▲ 320	19	1	426	410	0	80	450	707	300	-	2,410	56
島根	16,100	15,700	400	117	▲ 83	1,180	▲ 400	0	7	453	720	0	205	441	368	252	5	2,567	12
岡山	28,100	27,200	900	98	▲ 183	1,018	▲ 936	216	27	297	477	-	898	706	781	96	-	3,596	38
広島	20,200	20,100	100	165	▲ 193	855	▲ 388	38	67	113	638	0	254	180	841	222	-	2,517	33
山口	16,300	15,800	500	828	▲ 143	1,128	▲ 429	93	18	589	427	-	749	605	718	30	0	4,058	4
徳島	10,300	9,790	510	3	▲ 17	362	▲ 563	2	4	168	187	-	47	2	77	2	-	493	-
香川	10,100	9,770	330	22	▲ 31	426	▲ 149	21	8	60	337	-	1,083	30	199	3	1	1,765	-
愛媛	12,700	12,700	0	46	0	380	▲ 206	-	2	160	218	-	392	251	189	3	-	1,261	11
高知	10,500	10,100	400	73	▲ 10	830	▲ 574	-	15	492	323	-	3	48	111	0	-	1,065	14
福岡	34,500	32,200	2,300	180	▲ 34	3,134	▲ 1,577	3	235	937	1,958	-	1,195	6,673	374	37	1	11,592	74
佐賀	23,700	22,000	1,700	320	▲ 56	2,230	▲ 784	15	12	451	1,753	-	210	6,281	329	12	0	9,384	33
長崎	9,460	9,360	100	4	▲ 1	1,486	▲ 245	13	3	76	1,395	-	76	191	1,543	35	2	3,338	15
熊本	31,900	28,800	3,100	282	▲ 385	8,896	▲ 2,118	26	59	564	8,202	45	632	1,741	1,666	153	6	13,376	118
大分	18,900	17,800	1,100	119	▲ 40	3,342	▲ 1,263	5	56	1,015	2,266	-	599	795	825	72	1	5,753	16
宮崎	13,500	12,400	1,100	1,550	▲ 559	7,570	▲ 766	8	16	768	6,758	19	12	187	2,640	26	0	11,986	11
鹿児島	17,600	15,600	2,000	877	▲ 566	3,757	▲ 1,158	-	10	340	3,405	2	98	220	1,318	29	-	6,297	6
沖縄	597	557	40	34	▲ 6	35	▲ 12	-	1	2	32	-	-	-	22	-	-	91	-

- 注1：主食用米は統計部公表の都道府県別の主食用米の面積。
- 注2：加工用米及び新規需要米は、取組計画の届出面積。
- 注3：麦、大豆、飼料作物、そば及びなたねは、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
- 注4：R7年産畑地化面積は、令和7年度に畑地化促進事業で採択された面積。
- 注5：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））①

- 農林水産省では、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、需要に応じた生産・販売を行うことができるよう、都道府県別の作付意向を聞き取り、公表。
- 令和8年1月末時点の主食用米の作付意向は、136.1万ha（対前年0.6万ha減）。備蓄米が1.4万ha（対前年1.4万ha増）。合計すれば対前年0.8万ha増。（平均単収（538kg/10a）で計算すると主食用米732万トン、備蓄米8万トンに相当）
- 本調査結果等も踏まえ、産地・生産者が主体的に作付けを判断し、令和8年6月30日（火曜日）までに、生産者から地域農業再生協議会に営農計画書等が提出されることから、作付意向は今後変動が見込まれる。

【主食用米、備蓄米及び戦略作物の作付状況】

（万ha）

年産	主食用米	備蓄米	戦略作物								
			加工用米	新規需要米	新市場開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)	麦	大豆	合計
R4年産	125.1	3.6	5.0	20.6	0.7	0.8	14.2	4.8	10.6	8.9	45.1
R5年産	124.2	3.5	4.9	20.4	0.9	0.8	13.4	5.3	10.5	8.8	44.5
R6年産	125.9	3.0	5.0	17.3	1.1	0.6	9.9	5.6	10.3	8.4	41.1
R7年産	136.7	—	4.4	10.8	0.9	0.4	4.6	4.9	9.5	7.5	32.1
R8年産 (1月末時点)	136.1	1.4	4.3	10.2	0.9	0.4	4.1	4.8	9.1	7.3	31.0
対前年差	-0.6	1.4	-0.1	-0.5	0.0	0.0	-0.5	-0.1	-0.4	-0.2	-1.2

注1：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。

2：主食用米の7年産以前の実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。

3：備蓄米は、7年産の入札を中止。6年産以前の実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

4：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の6年産以前の実績は、取組計画の認定面積。7年産は取組計画の届出面積。

5：麦及び大豆の7年産以前の実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

6：単位未満で四捨五入しているため、表記上の数値による計算結果と一致しない場合がある。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））②

【全国・北海道・東北・北陸】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向		
全国計	136.7万	136.1万		30.0	14.1	44.2	43.3	107.5	102.4	9.0	9.2	3.5	3.7	46.0	41.4	48.9	47.9	94.8	90.9	74.9	73.0	321.4	309.5
北海道	90.4	90.3	→	1.8	1.7	8.1	8.4	7.6	6.1	2.1	2.2	0.1	0.1	2.3	1.1	3.0	2.7	29.7	28.0	14.8	13.5	60.1	56.0
青森	43.7	44.7	↗	4.0	0.3	0.3	0.4	5.2	4.0	0.3	0.3	0.0	0.0	4.2	3.0	0.7	0.7	0.5	0.5	4.3	4.2	10.3	9.0
岩手	46.9	46.7	→	0.6	0.6	0.8	0.8	5.3	5.1	0.4	0.4	0.0	0.0	2.9	2.7	2.0	1.9	3.3	3.2	3.7	3.6	13.1	12.7
宮城	65.3	64.0	↘	2.2	1.9	1.8	1.4	6.5	6.2	0.8	0.8	0.1	0.1	3.3	3.0	2.3	2.3	2.2	2.0	8.6	8.7	19.1	18.2
秋田	81.2	80.4	→	2.7	0.8	5.6	5.6	2.5	2.3	0.5	0.4	0.2	0.1	0.8	0.8	1.0	1.0	0.1	0.1	7.3	7.2	15.5	15.2
山形	57.1	55.2	↘	3.4	2.6	4.7	4.5	4.8	4.5	0.5	0.4	0.1	0.0	3.1	2.8	1.2	1.2	0.1	0.1	4.0	3.9	13.7	13.0
福島	67.0	65.9	↘	5.6	1.4	0.9	0.8	2.4	2.4	0.1	0.1	0.0	0.0	1.4	1.4	0.9	0.9	0.4	0.4	0.8	0.8	4.5	4.3
新潟	108.6	105.2	↘	4.7	3.1	6.6	6.8	4.2	4.8	1.5	1.7	0.7	0.9	1.3	1.5	0.6	0.7	0.2	0.2	3.3	3.5	14.4	15.3
富山	33.7	34.0	→	1.8	0.5	1.3	1.3	2.6	2.4	0.4	0.4	0.3	0.3	1.5	1.3	0.5	0.5	2.9	2.5	3.6	3.3	10.4	9.5
石川	22.1	22.2	→	0.2	0.4	0.6	0.6	0.4	0.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	1.1	0.8	0.8	0.8	2.9	2.6
福井	23.3	23.1	→	0.7	0.7	0.8	0.6	1.3	1.4	0.3	0.3	0.1	0.1	0.9	0.8	0.1	0.1	5.0	4.2	0.0	0.1	7.2	6.2

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））③

【関東・東海】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向		
茨城	66.7	67.1	→	0.1	0.0	1.1	1.0	5.7	5.4	0.9	0.9	0.1	0.1	4.2	3.8	0.5	0.5	3.6	3.5	0.7	0.7	11.0	10.5
栃木	58.1	58.1	→	1.1	-	1.7	1.7	7.2	7.2	0.0	0.1	0.2	0.2	5.0	5.0	2.0	1.9	6.6	6.6	0.4	0.4	15.9	15.8
群馬	14.7	14.7	→	-	-	0.2	0.2	0.9	0.9	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	0.6	0.6	1.4	1.4	0.1	0.1	2.6	2.7
埼玉	30.6	30.6	→	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	1.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.8	0.8	0.1	0.1	2.2	2.3	0.3	0.3	3.8	3.8
千葉	53.1	53.3	→	0.1	0.0	1.5	1.4	3.2	3.1	0.1	0.1	0.0	0.1	2.1	2.0	1.0	0.9	0.4	0.4	0.2	0.2	5.3	5.0
東京	0.1	0.1	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2.8	2.8	→	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
山梨	4.6	4.6	→	-	-	0.1	0.1	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2
長野	30.0	30.0	→	0.2	-	0.4	0.5	0.6	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.2	2.3	2.2	0.6	0.5	3.9	3.7
岐阜	20.8	21.1	↗	0.1	-	1.0	0.8	2.1	1.9	0.1	0.1	0.1	0.1	1.7	1.5	0.3	0.3	3.6	3.6	0.2	0.2	6.9	6.6
静岡	14.7	14.8	→	0.0	-	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.0	0.0	0.8	0.8
愛知	25.7	25.8	→	0.1	-	0.5	0.5	1.4	1.4	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	0.9	0.1	0.1	5.6	5.5	0.0	0.0	7.6	7.4
三重	25.7	25.4	↘	-	-	0.1	0.1	1.3	1.3	0.1	0.1	0.0	0.0	0.9	0.9	0.3	0.3	6.7	6.7	0.1	0.1	8.2	8.2

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「赤：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「緑：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））④

【近畿・中国】

単位：千ha

都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向		
滋賀	29.3	29.6	↗	0.2	-	0.3	0.3	1.1	1.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5	0.3	0.3	7.9	7.6	0.6	0.5	10.0	9.4
京都	13.2	13.1	→	-	-	0.4	0.4	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.2	1.1	1.0
大阪	4.1	4.1	→	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
兵庫	33.6	33.7	→	-	-	0.6	0.6	1.4	1.3	0.2	0.1	0.0	0.0	0.2	0.3	0.9	0.9	1.8	1.8	1.4	1.3	5.1	5.0
奈良	7.8	7.7	→	-	-	0.0	0.0	0.1	0.1	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.2	0.2
和歌山	5.6	5.6	→	-	-	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鳥取	12.0	12.0	→	0.1	-	0.0	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	0.4	0.4	0.1	0.1	0.5	0.4	1.4	1.4
島根	16.1	16.2	→	0.0	-	0.1	0.1	1.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.7	0.6	0.2	0.2	0.4	0.4	1.9	1.7
岡山	28.1	28.1	→	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0	1.0	0.2	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	0.5	0.9	0.9	0.7	0.7	2.7	2.7
広島	20.2	20.0	→	0.0	-	0.2	0.2	0.9	0.8	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.6	0.6	0.3	0.3	0.2	0.2	1.5	1.4
山口	16.3	16.5	↗	-	-	0.8	0.8	1.1	1.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.6	0.5	0.4	0.4	0.7	0.8	0.6	0.6	3.3	3.2

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「↗：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「↘：減少傾向」（1%超減少）で分類。

水田における作付意向について（令和8年産第1回中間的取組状況（令和8年1月末時点））⑤

【四国・九州・沖縄】

単位：千ha

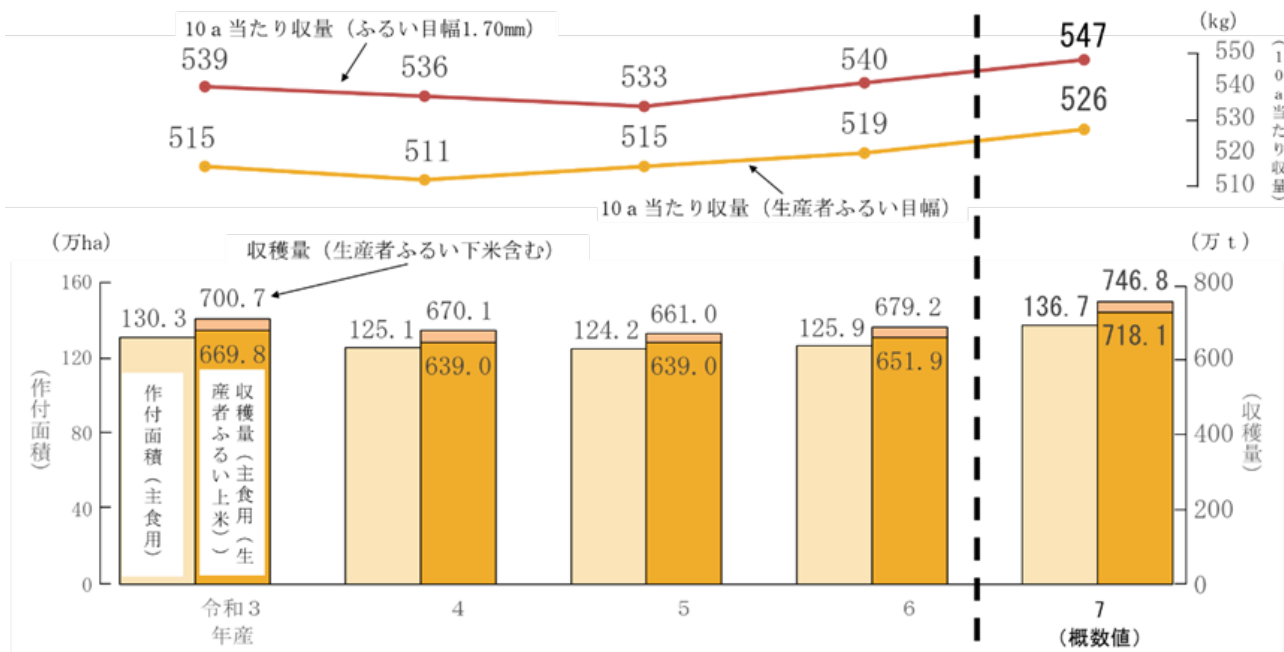
都道府県	主食用米			備蓄米		戦略作物																	
						加工用米		新規需要米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		合計	
	R7実績	R8意向	対前年実績	R6実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向	R7実績	R8意向
徳島	10.3	10.3	→	0.1	-	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
香川	10.1	10.1	→	-	-	0.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.3	1.1	1.1	0.0	0.0	1.6	1.5
愛媛	12.7	12.8	→	-	-	0.0	0.0	0.4	0.3	-	-	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.2	0.4	0.4	0.3	0.2	1.1	1.0
高知	10.5	10.5	→	0.0	-	0.1	0.1	0.8	0.8	-	-	0.0	0.0	0.5	0.5	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0
福岡	34.5	34.8	→	0.0	-	0.2	0.2	3.1	3.2	0.0	0.0	0.2	0.3	0.9	1.0	2.0	2.0	1.2	1.2	6.7	6.9	11.2	11.5
佐賀	23.7	23.9	→	-	-	0.3	0.2	2.2	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	1.8	1.7	0.2	0.3	6.3	6.2	9.0	8.8
長崎	9.5	9.5	→	-	-	0.0	0.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	1.4	1.4	0.1	0.1	0.2	0.2	1.8	1.7
熊本	31.9	31.8	→	-	-	0.3	0.3	8.9	8.9	0.0	0.0	0.1	0.1	0.6	0.6	8.2	8.2	0.6	0.6	1.7	1.7	11.6	11.6
大分	18.9	18.9	→	0.0	-	0.1	0.1	3.3	3.3	0.0	0.0	0.1	0.1	1.0	1.0	2.3	2.3	0.6	0.6	0.8	0.8	4.9	4.8
宮崎	13.5	13.4	→	-	-	1.5	1.6	7.6	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	6.8	6.7	0.0	0.0	0.2	0.2	9.3	9.2
鹿児島	17.6	17.6	→	-	-	0.9	0.9	3.8	3.8	-	-	0.0	0.0	0.3	0.3	3.4	3.4	0.1	0.1	0.2	0.2	5.0	4.9
沖縄	0.6	0.6	→	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	0.1	0.1

- 注1：主食用米の7年産実績は、統計部公表の主食用米の作付面積。
 2：主食用米、備蓄米及び戦略作物の8年産意向は、地方農政局等が1月末時点で都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（麦・大豆は基幹作の面積）。
 3：主食用米の対前年実績は、7年産実績と比較し、「↑：増加傾向」（1%超増加）、「→：前年並み」（増減1%以内）、「↓：減少傾向」（1%超減少）で分類。
 4：備蓄米は、7年産の入札を中止。
 5：加工用米及び新規需要米（新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米及びWCS用稲）の7年産実績は、取組計画の届出面積。
 6：麦・大豆の7年産実績は、地方農政局等が都道府県農業再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。
 7：戦略作物の8年産意向の数値は、7年産実績と比較し、「↑：増加傾向」（1%超増加）、「黒：前年並み」（増減1%以内）、「↓：減少傾向」（1%超減少）で分類。

令和7年産主食用米の収穫量

- 令和7年産の水稲の生産者が使用しているふるい目幅(1.80mm~1.90mm)ベースの収穫量(主食用)は718.1万トンで、前年産に比べ66.2万トン増加と見込まれる。これは、
 - ① 作付面積(主食用)が、新規需要米や備蓄米等からの転換等があったため、136.7万haで、前年産に比べ10.8万ha増加となったことに加え、
 - ② 全国の10a当たり収量(生産者が使用しているふるい目幅ベース)は、一部地域で5月上旬から6月中旬にかけての気温や日照時間が前年を下回る地域があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれたため、526kgで、前年産に比べ7kg増加と見込まれるためである。
- 令和7年産の水稲のふるい目幅1.70mmベースの収穫量(主食用)は746.8万トンで、前年産に比べ67.6万トン増加と見込まれる。

【水稲の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量の推移（全国）】



資料：農林水産省大臣官房統計部「作物統計調査 令和7年産水陸稲の収穫量」

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稲全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 10a 当たり収量（生産者ふるい目幅）及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 10a 当たり収量（ふるい目幅1.70mm）及び収穫量（生産者ふるい下米含む）は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である。

米の販売数量及び民間在庫の推移（令和8年1月）

- 年間玄米仕入数量5万トン以上の米穀販売事業者における令和7年7月から令和8年1月の累計販売数量は、対前年比92%（うち中食・外食事業者等向けは対前年比91%、小売事業者向けは対前年比93%）と前年を下回る数量となっている。
- 令和8年1月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年差+92万トンの321万トンとなっており、出荷段階は対前年差+71万トンの251万トン、販売段階は対前年差+21万トンの71万トンとなっている。

【米穀販売事業者における販売数量の動向（前年同月比）（速報）】

	6年7月 ～7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	7年7月 ～8年1月計
小売事業者向け	92%	94%	84%	99%	107%	92%	91%	87%	93%
中食・外食事業者等向け	98%	93%	91%	94%	93%	90%	89%	90%	91%
販売数量計	95%	94%	87%	96%	100%	91%	90%	89%	92%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000トン以上の販売事業者（年間取扱数量約160万トン（令和6年産主食用米等の生産量679万トンの約2割））である。

2：上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。

3：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米を含む。

【購入数量の推移（家計調査）】

		6年7月 ～7年6月計	7年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	8年 1月	7年7月 ～8年1月計
米	購入数量	60,060	4,340	5,310	7,980	7,940	5,030	4,720	3,410	38,730
	前年同月比	104.9%	99.3%	92.7%	125.7%	103.8%	98.4%	90.6%	90.7%	101.4%
パン	購入数量	41,731	3,327	3,508	3,444	3,470	3,504	3,623	3,388	24,264
	前年同月比	97.3%	96.2%	98.9%	103.1%	102.6%	101.0%	101.4%	101.1%	100.6%
めん類	購入数量	34,195	3,251	3,039	2,471	2,615	2,793	3,304	2,844	20,317
	前年同月比	103.1%	109.6%	96.9%	96.6%	101.2%	105.1%	102.3%	105.8%	102.5%

（単位：g）

資料：総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移（出荷＋販売段階）（速報）】

（単位：万トン（玄米））

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
6 / 7 年	出荷+販売段階	82	65	149	244	259	253	229	205	180	168	148	121
	出荷段階	58	44	113	187	200	196	179	159	135	125	109	84
	販売段階	25	21	36	58	59	56	50	46	45	43	40	37
7 / 8 年	出荷+販売段階	92	84	197	306	329	337	321					
	対前年差	+10	+19	+48	+62	+70	+84	+92					
	出荷段階	60	51	144	226	248	260	251					
	対前年差	+2	+7	+31	+39	+48	+63	+71					
	販売段階	32	33	53	80	81	78	71					
対前年差	+8	+12	+17	+22	+22	+21	+21						

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2：報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

3：期間については、7/8年であれば、令和7年7月～8年6月である。

4：令和7年3月以降には、売り渡した政府備蓄米の数量（令和8年1月末時点で0.1万トン）を含む。

産地別民間在庫の状況（令和8年1月）

（単位：千トン（玄米））

	6年	7年	7年	対前年		8年	対前年	
	12月	1月	12月	同月差	同月比	1月	同月差	同月比
	①	②	③	④=③-①	⑤=③/①	⑥	⑦=⑥-②	⑧=⑥/②
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)
北海道	289.6	270.3	318.5	+ 28.9	+ 10.0%	311.1	+ 40.8	+ 15.1%
青森	131.8	117.9	184.2	+ 52.4	+ 39.8%	171.3	+ 53.4	+ 45.3%
岩手	123.2	107.9	141.3	+ 18.1	+ 14.7%	138.6	+ 30.7	+ 28.5%
宮城	139.5	127.7	174.0	+ 34.5	+ 24.7%	164.6	+ 37.0	+ 29.0%
秋田	213.5	196.1	298.6	+ 85.1	+ 39.9%	282.3	+ 86.1	+ 43.9%
山形	168.2	154.1	204.7	+ 36.5	+ 21.7%	190.3	+ 36.2	+ 23.5%
福島	169.7	159.3	239.3	+ 69.6	+ 41.0%	229.5	+ 70.2	+ 44.1%
茨城	95.1	82.1	143.0	+ 47.9	+ 50.4%	132.8	+ 50.7	+ 61.8%
栃木	125.2	109.6	170.6	+ 45.3	+ 36.2%	159.5	+ 49.9	+ 45.5%
群馬	14.2	15.1	26.0	+ 11.8	+ 82.6%	28.7	+ 13.6	+ 90.1%
埼玉	19.0	16.4	32.7	+ 13.7	+ 71.9%	34.6	+ 18.2	+ 111.0%
千葉	51.6	44.9	82.3	+ 30.6	+ 59.4%	74.7	+ 29.8	+ 66.3%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	1.1	0.9	1.7	+ 0.7	+ 61.7%	1.4	+ 0.5	+ 58.1%
山梨	3.7	3.2	3.9	+ 0.2	+ 6.0%	3.7	+ 0.5	+ 15.5%
長野	58.9	51.4	66.1	+ 7.2	+ 12.2%	60.9	+ 9.5	+ 18.5%
静岡	14.8	10.8	23.4	+ 8.6	+ 58.1%	17.3	+ 6.5	+ 60.4%
新潟	232.7	207.3	308.9	+ 76.2	+ 32.7%	284.8	+ 77.5	+ 37.4%
富山	73.8	67.0	85.8	+ 12.1	+ 16.4%	82.7	+ 15.7	+ 23.4%
石川	49.8	43.2	71.1	+ 21.2	+ 42.6%	64.2	+ 21.0	+ 48.6%
福井	42.5	38.4	55.9	+ 13.4	+ 31.6%	52.4	+ 14.0	+ 36.4%
岐阜	22.1	20.0	38.0	+ 15.9	+ 71.7%	36.2	+ 16.2	+ 81.1%
愛知	25.7	23.0	38.2	+ 12.5	+ 48.6%	36.6	+ 13.6	+ 59.2%
三重	22.7	20.2	36.7	+ 14.0	+ 61.4%	33.5	+ 13.3	+ 66.1%

	6年	7年	7年	対前年		8年	対前年	
	12月	1月	12月	同月差	同月比	1月	同月差	同月比
	①	②	③	④=③-①	⑤=③/①	⑥	⑦=⑥-②	⑧=⑥/②
	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)	(千玄米トン)	(千玄米トン)	(%)
滋賀	36.7	35.1	61.8	+ 25.1	+ 68.2%	58.2	+ 23.0	+ 65.6%
京都	6.9	7.1	9.8	+ 2.8	+ 40.9%	9.9	+ 2.8	+ 38.8%
大阪	1.1	0.7	1.0	+ 0.0	▲ 4.3%	1.0	+ 0.3	+ 41.1%
兵庫	31.8	27.4	44.6	+ 12.8	+ 40.3%	42.6	+ 15.2	+ 55.5%
奈良	6.1	5.2	7.8	+ 1.7	+ 28.5%	7.2	+ 2.0	+ 38.5%
和歌山	1.0	0.8	2.9	+ 1.9	+ 201.1%	2.7	+ 1.9	+ 226.0%
鳥取	21.5	23.4	37.7	+ 16.1	+ 75.0%	40.4	+ 17.0	+ 72.9%
島根	20.7	19.5	28.7	+ 7.9	+ 38.3%	26.7	+ 7.2	+ 37.1%
岡山	33.8	31.3	41.4	+ 7.6	+ 22.4%	53.0	+ 21.7	+ 69.5%
広島	26.1	22.8	29.5	+ 3.4	+ 12.9%	27.5	+ 4.7	+ 20.6%
山口	23.4	20.8	30.5	+ 7.2	+ 30.7%	29.3	+ 8.5	+ 40.8%
徳島	4.9	4.4	10.1	+ 5.2	+ 106.8%	9.5	+ 5.0	+ 112.8%
香川	12.4	11.1	16.5	+ 4.2	+ 33.6%	15.5	+ 4.5	+ 40.5%
愛媛	7.5	6.5	11.3	+ 3.8	+ 50.6%	10.6	+ 4.1	+ 63.8%
高知	4.7	4.0	8.0	+ 3.3	+ 71.4%	7.7	+ 3.6	+ 90.2%
福岡	41.5	37.1	62.5	+ 21.0	+ 50.7%	59.3	+ 22.3	+ 60.1%
佐賀	21.8	22.4	30.2	+ 8.4	+ 38.4%	32.5	+ 10.1	+ 45.1%
長崎	7.1	7.0	11.1	+ 4.0	+ 55.4%	10.8	+ 3.7	+ 53.1%
熊本	35.3	31.0	50.5	+ 15.2	+ 43.1%	51.8	+ 20.8	+ 67.2%
大分	12.4	11.2	19.2	+ 6.8	+ 54.7%	18.2	+ 7.0	+ 62.4%
宮崎	6.8	6.4	10.9	+ 4.1	+ 60.1%	9.8	+ 3.4	+ 52.9%
鹿児島	11.8	11.2	21.2	+ 9.4	+ 79.8%	21.8	+ 10.5	+ 93.7%
沖縄	0.1	0.0	0.3	+ 0.2	+ 367.1%	0.2	+ 0.2	+ 593.1%
全国	253万ト	229万ト	337万ト	+84万ト	+ 33.4%	321万ト	+92万ト	+ 40.1%

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

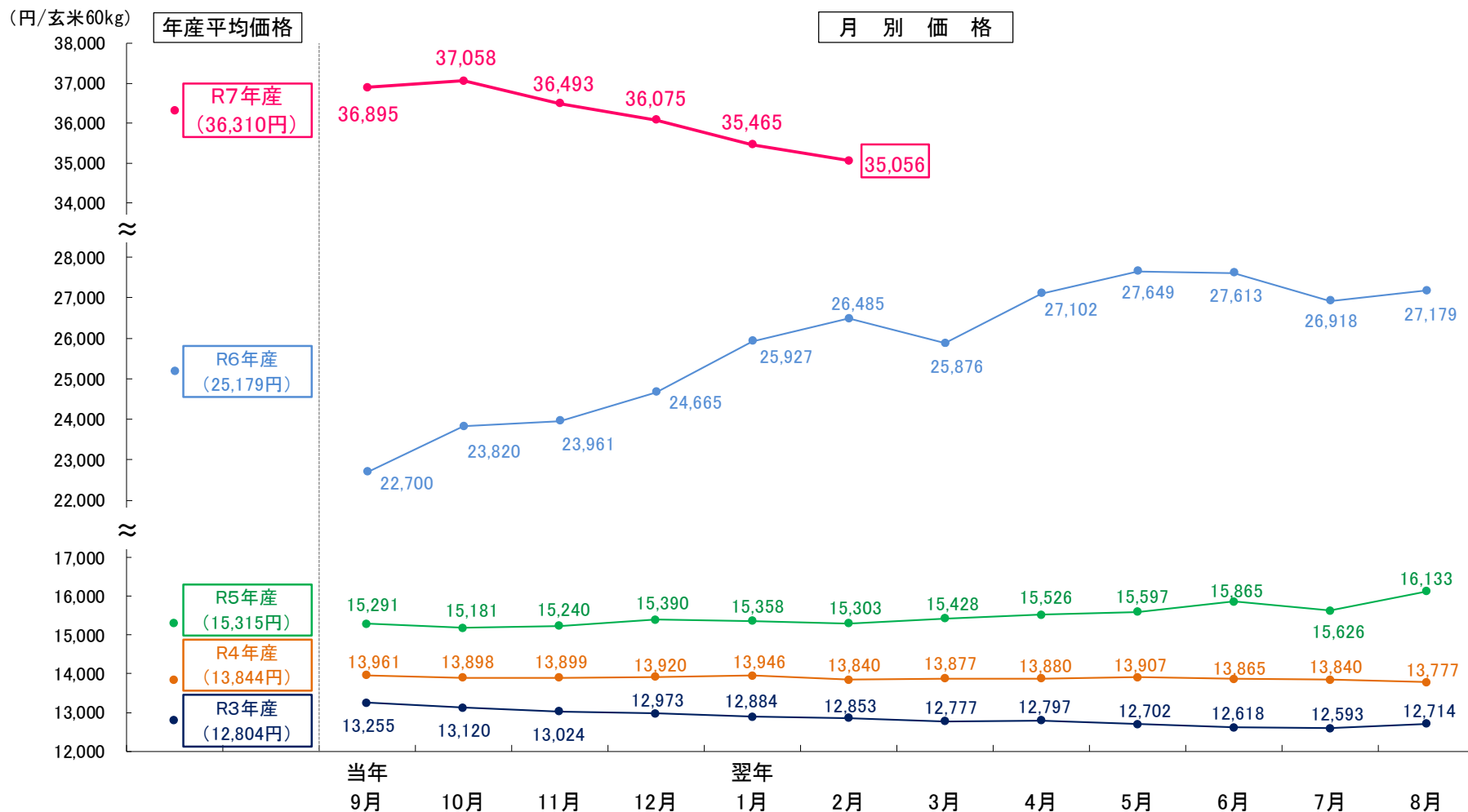
注：1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米（醸造用玄米を含む。）の月末在庫量（玄米換算）の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の玄米仕入量が500トン以上）、米穀の販売の事業を行う者（年間の玄米仕入量が4,000トン以上）である。

3 令和7年12月及び令和8年1月には、売り渡した政府備蓄米の数量（7年12月：0.2万トン、8年1月：0.1万トン）を含む。

相対取引価格の推移(令和3年産～令和7年産)

- 令和7年産米の令和8年2月の相対取引価格は、全銘柄平均で35,056円/玄米60kgとなり、対前年同月+8,571円(+32%)、対前月▲409円(▲1%)となったところ。また、取引数量は、11.1万トン(対前年同月比▲34%)となった。
- 年産平均価格は36,310円/玄米60kgとなり、対前年+11,131円(+44%)となった。



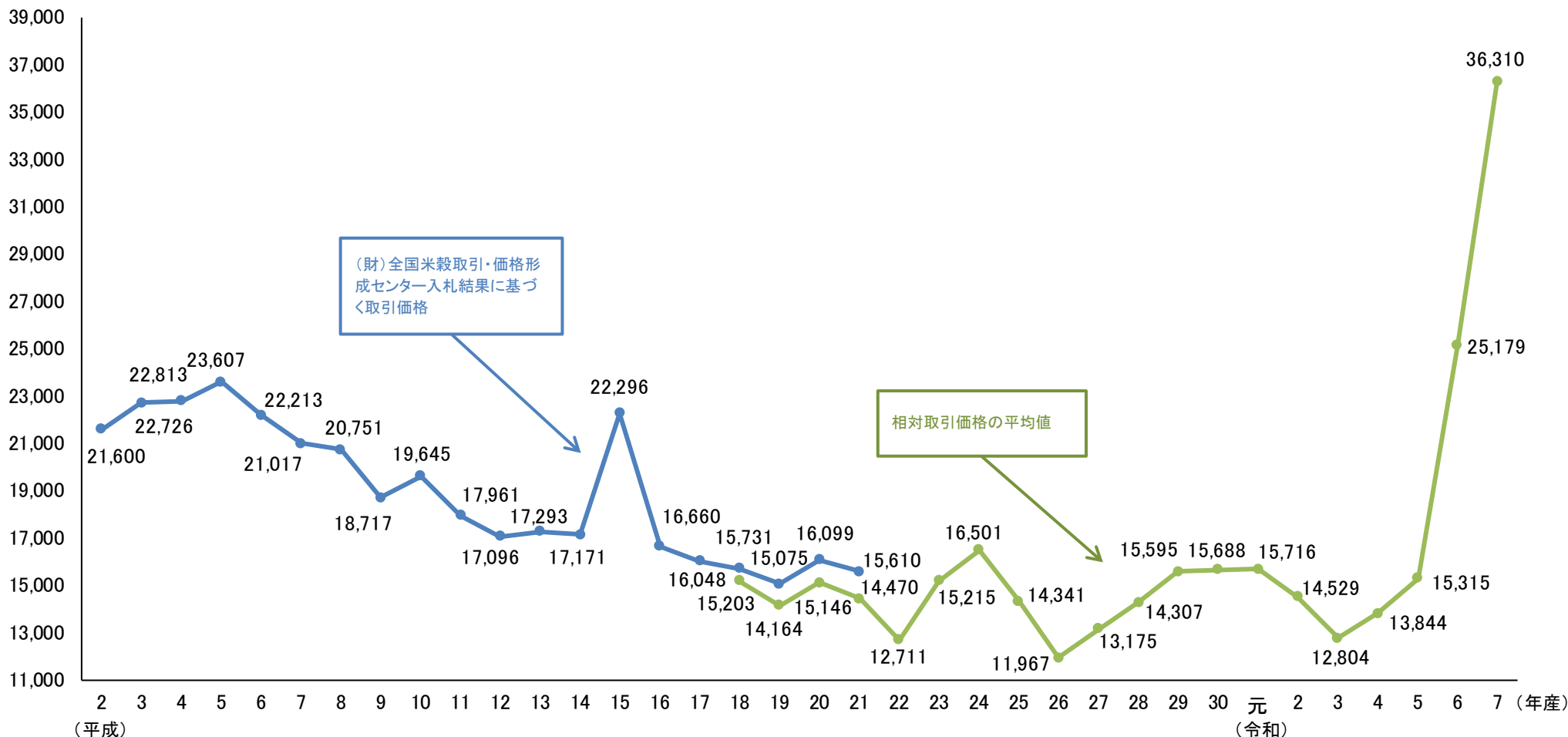
資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。

注2：グラフ左側の年産平均価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで（7年産は出回りから令和8年2月までの速報値）の通年平均価格、右側は月ごとの価格の推移。

長期的な主食用米の価格の動向

(単位: 円/60kg)



資料：(財)全国米穀取引・価格形成センター入札結果、農林水産省「相対取引価格」

注1：価格には、包装代、運賃、消費税相当額等を含む。

注2：年産別平均価格（令和7年産は、出回りから令和8年2月までの速報値）。

※・コメ価格センター取引は、自主流通米の指標価格の形成を図るために実施されていたが、平成16年の食糧法改正により計画流通制度が廃止され、義務上場がなくなったこと等を背景に取引が低調となり、平成21年産をもって取引を中止。

・コメ価格センター取引が低調となったことを受けて、コメ価格センター取引価格の指標性を確認する観点から、相対取引価格について、農林水産省が18年産米から年間取扱数量5,000トン以上の全国出荷団体等と卸売業者の取引価格を調査、公表。その後も米の価格動向を把握するため引き続き実施。

令和7年産米の相対取引価格(令和8年2月の年産平均価格)

(単位：円/玄米60kg (税込))

産地品種銘柄	令和7年産 〔出回り～ 8年2月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差	
	①	②	①-②	
北海道	ななつばし	35,639	27,035	+ 8,604
北海道	ゆめぴりか	37,311	28,034	+ 9,277
北海道	きらら397	35,663	26,349	+ 9,314
青森	まつくら	34,704	26,297	+ 8,407
青森	はれわた	36,719	-	-
岩手	ひとめぼれ	36,860	24,101	+ 12,759
岩手	銀河のしずく	36,966	24,387	+ 12,579
岩手	あきたこまち	38,011	25,413	+ 12,598
宮城	ひとめぼれ	37,164	24,315	+ 12,849
宮城	つや姫	36,220	24,276	+ 11,944
宮城	ササニシキ	38,596	24,726	+ 13,870
秋田	あきたこまち	38,230	24,806	+ 13,424
秋田	めんこいな	36,376	23,770	+ 12,606
秋田	ひとめぼれ	35,597	22,285	+ 13,312
山形	はえぬき	35,432	25,804	+ 9,628
山形	つや姫	39,639	28,137	+ 11,502
山形	雪若丸	36,245	26,676	+ 9,569
福島	コシヒカリ (中通り)	36,345	27,013	+ 9,332
福島	コシヒカリ (会津)	36,957	26,437	+ 10,520
福島	コシヒカリ (浜通り)	37,470	26,069	+ 11,401
福島	天のつば	34,625	24,772	+ 9,853
福島	ひとめぼれ	36,095	26,343	+ 9,752
茨城	コシヒカリ	37,560	28,223	+ 9,337
茨城	あきたこまち	36,061	26,462	+ 9,599
茨城	にじのきらめき	35,541	26,785	+ 8,756
栃木	コシヒカリ	36,657	25,295	+ 11,362
栃木	とちぎの星	33,552	24,927	+ 8,625
栃木	あさひの夢	33,656	24,600	+ 9,056
群馬	あさひの夢	35,359	27,033	+ 8,326
群馬	にじのきらめき	33,250	-	-
埼玉	彩のきずな	34,638	23,846	+ 10,792
埼玉	彩のかがやき	34,564	26,145	+ 8,419
埼玉	コシヒカリ	35,711	24,746	+ 10,965
千葉	コシヒカリ	36,606	24,169	+ 12,437
千葉	ふさこがね	33,886	23,591	+ 10,295
千葉	ふさおとめ	33,383	23,384	+ 9,999
山梨	コシヒカリ	36,216	19,758	+ 16,458
長野	コシヒカリ	36,268	23,438	+ 12,830
長野	あきたこまち	35,192	23,015	+ 12,177
静岡	コシヒカリ	35,630	23,512	+ 12,118

産地品種銘柄	令和7年産 〔出回り～ 8年2月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差	
	①	②	①-②	
静岡	きぬむすめ	27,170	22,393	+ 4,777
静岡	にごまる	-	24,397	-
新潟	コシヒカリ (一般)	38,528	25,636	+ 12,892
新潟	コシヒカリ (魚沼)	41,846	26,517	+ 15,329
新潟	コシヒカリ (佐渡)	38,821	25,253	+ 13,568
新潟	コシヒカリ (岩船)	38,464	25,140	+ 13,324
新潟	こしいぶき	34,592	23,552	+ 11,040
富山	コシヒカリ	36,296	26,635	+ 9,661
富山	てんたかく	35,136	24,725	+ 10,411
富山	富富富	32,880	-	-
石川	コシヒカリ	36,144	23,317	+ 12,827
石川	ゆめみづほ	33,629	21,948	+ 11,681
石川	ひやくまん穀	38,025	-	-
福井	コシヒカリ	33,426	21,494	+ 11,932
福井	ハナエチゼン	32,859	21,166	+ 11,693
福井	あきさかり	32,362	21,213	+ 11,149
岐阜	ハツシモ	36,976	25,448	+ 11,528
岐阜	コシヒカリ	38,451	25,604	+ 12,847
岐阜	ほしじるし	34,331	24,165	+ 10,166
愛知	あいちのかおり	34,719	24,203	+ 10,516
愛知	コシヒカリ	-	-	-
愛知	大地の風	-	-	-
三重	コシヒカリ (一般)	39,464	23,303	+ 16,161
三重	コシヒカリ (伊賀)	39,679	23,672	+ 16,007
三重	キヌヒカリ	36,380	22,429	+ 13,951
滋賀	コシヒカリ	35,057	23,771	+ 11,286
滋賀	みずかがみ	34,939	23,782	+ 11,157
滋賀	キヌヒカリ	33,777	24,177	+ 9,600
京都	コシヒカリ	36,601	22,946	+ 13,655
京都	キヌヒカリ	33,214	20,348	+ 12,866
京都	ヒノヒカリ	34,197	22,074	+ 12,123
兵庫	コシヒカリ	37,874	23,954	+ 13,920
兵庫	ヒノヒカリ	34,041	23,327	+ 10,714
兵庫	キヌヒカリ	34,220	22,613	+ 11,607
奈良	ヒノヒカリ	-	21,684	-
鳥取	きぬむすめ	35,812	24,575	+ 11,237
鳥取	コシヒカリ	36,360	23,519	+ 12,841
鳥取	ひとめぼれ	35,561	23,777	+ 11,784
島根	きぬむすめ	34,343	19,943	+ 14,400
島根	コシヒカリ	36,019	20,761	+ 15,258

産地品種銘柄	令和7年産 〔出回り～ 8年2月〕	令和6年産 〔出回り～ 7年10月〕	価格差		
	①	②	①-②		
島根	つや姫	35,821	20,464	+ 15,357	
岡山	アケボノ	35,245	25,558	+ 9,687	
岡山	きぬむすめ	35,732	25,351	+ 10,381	
岡山	コシヒカリ	36,539	25,341	+ 11,198	
広島	コシヒカリ	35,609	22,696	+ 12,913	
広島	あきさかり	35,163	21,511	+ 13,652	
広島	あきろまん	34,794	22,305	+ 12,489	
山口	コシヒカリ	34,426	22,575	+ 11,851	
山口	ひとめぼれ	34,416	22,173	+ 12,243	
山口	きぬむすめ	33,774	22,245	+ 11,529	
徳島	コシヒカリ	36,095	23,568	+ 12,527	
徳島	あきさかり	32,682	22,633	+ 10,049	
香川	ヒノヒカリ	34,225	22,552	+ 11,673	
香川	コシヒカリ	34,765	22,515	+ 12,250	
香川	あきさかり	34,225	22,127	+ 12,098	
愛媛	コシヒカリ	38,227	21,469	+ 16,758	
愛媛	ひめの雫	-	-	-	
愛媛	ヒノヒカリ	-	23,901	-	
高知	コシヒカリ	35,299	22,339	+ 12,960	
高知	ヒノヒカリ	34,327	21,367	+ 12,960	
福岡	夢つし	33,776	24,163	+ 9,613	
福岡	ヒノヒカリ	33,627	24,616	+ 9,011	
福岡	元気つし	34,089	25,241	+ 8,848	
佐賀	さがびより	36,225	22,228	+ 13,997	
佐賀	夢しずく	36,926	21,691	+ 15,235	
佐賀	ヒノヒカリ	-	-	-	
長崎	にごまる	34,815	24,307	+ 10,508	
長崎	なつほのか	34,791	24,089	+ 10,702	
長崎	ヒノヒカリ	34,750	23,743	+ 11,007	
熊本	ヒノヒカリ	36,331	25,821	+ 10,510	
熊本	森のくまさん	-	23,519	-	
熊本	コシヒカリ	35,126	24,406	+ 10,720	
大分	ヒノヒカリ	34,816	24,265	+ 10,551	
大分	なつほのか	34,917	24,358	+ 10,559	
大分	ひとめぼれ	35,058	24,246	+ 10,812	
宮崎	コシヒカリ	36,508	22,600	+ 13,908	
宮崎	ヒノヒカリ	36,275	27,076	+ 9,199	
鹿児島	ヒノヒカリ	-	29,258	-	
鹿児島	あきほなみ	-	32,303	-	
鹿児島	コシヒカリ	31,679	21,140	+ 10,539	
全銘柄平均価格			36,310	25,179	+ 11,131

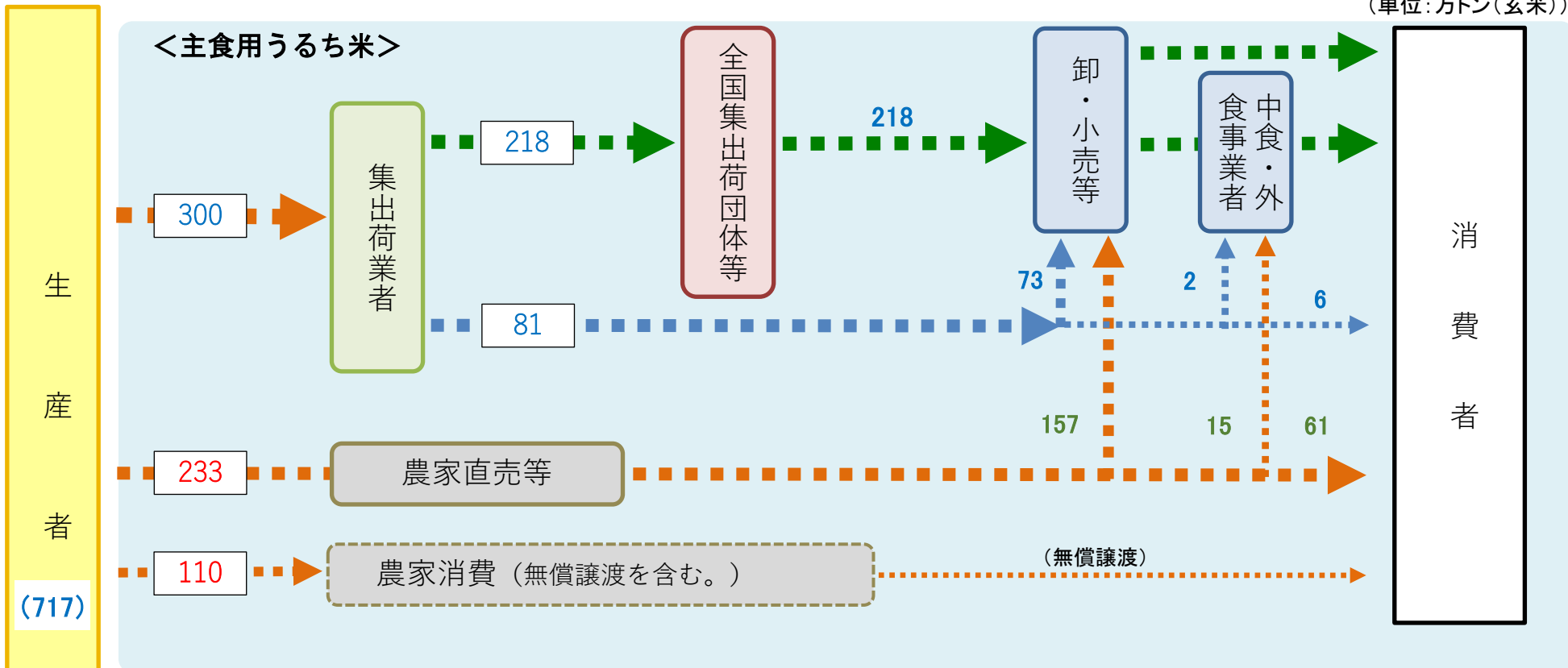
注1：農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和7年産は出回りから8年2月までの速報値)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

注2：運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

注3：「-」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

米の流通経路別流通量の状況（令和5年産米）

（単位：万トン（玄米））



<その他>

74 → 加工用米等、もち米等（集荷業者を通じて実需者に販売）

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀在庫等調査」、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

注1：集出荷業者には、全集連系を含む（JA等への出荷量300万トンのうち20万トンが全集連系）。

注2：「卸・小売等」には、加工事業者等を含む。

注3：ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。

（参考）入手経路別の購入割合（複数回答）

	対前年比
スーパーマーケット	50.1% (±0.0%)
その他の小売店	21.6% (+0.4%)
産地直売所	1.9% (+0.5%)
インターネット	8.6% (▲0.3%)
生産者から直接購入	4.8% (+0.2%)
無償譲渡	15.3% (±0.0%)

※ 米穀安定供給確保支援機構調べを元に農林水産省で算出（令和5年4月から令和6年3月の年平均）

米の流通の状況（平成16年～令和5年産米）

【生産段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	生産量		出荷・販売		農家消費等		その他		加工用米等		もち米		減耗	
	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合
H16	872	100.0%	636	72.9%	180	20.6%	56	6.4%	12	1.4%	27	3.1%	17	1.9%
17	906	100.0%	653	72.1%	183	20.2%	62	6.8%	13	1.4%	31	3.4%	18	2.0%
18	855	100.0%	631	73.8%	165	19.3%	59	6.9%	15	1.8%	27	3.2%	17	2.0%
19	871	100.0%	632	72.6%	174	20.0%	65	7.5%	17	2.0%	31	3.6%	17	2.0%
20	882	100.0%	636	72.1%	172	19.5%	64	7.3%	16	1.8%	30	3.4%	18	2.0%
21	847	100.0%	624	73.7%	161	19.0%	62	7.3%	16	1.9%	29	3.4%	17	2.0%
22	848	100.0%	594	70.0%	174	20.5%	71	8.3%	22	2.6%	32	3.8%	17	2.0%
23	840	100.0%	604	71.9%	170	20.2%	66	7.9%	16	2.0%	33	3.9%	17	2.0%
24	852	100.0%	616	72.3%	167	19.5%	69	8.1%	19	2.2%	33	3.9%	17	2.0%
25	860	100.0%	626	72.8%	165	19.2%	69	8.0%	21	2.4%	31	3.6%	17	2.0%
26	844	100.0%	616	73.1%	154	18.3%	73	8.7%	27	3.2%	30	3.5%	17	2.0%
27	799	100.0%	579	72.5%	146	18.3%	74	9.2%	25	3.1%	33	4.1%	16	2.0%
28	804	100.0%	582	72.3%	146	18.1%	77	9.6%	26	3.2%	35	4.4%	16	2.0%
29	782	100.0%	569	72.8%	139	17.7%	74	9.5%	26	3.3%	33	4.2%	16	2.0%
30	778	100.0%	576	74.0%	130	16.7%	73	9.3%	28	3.6%	29	3.7%	16	2.0%
R元	776	100.0%	577	74.3%	129	16.6%	70	9.1%	27	3.4%	28	3.7%	16	2.0%
2	776	100.0%	580	74.7%	124	16.0%	72	9.3%	28	3.5%	29	3.8%	16	2.0%
3	756	100.0%	561	74.2%	121	16.0%	74	9.8%	28	3.7%	31	4.1%	15	2.0%
4	727	100.0%	537	73.9%	115	15.8%	75	10.3%	29	4.0%	31	4.2%	15	2.0%
5	717	100.0%	533	74.3%	110	15.4%	74	10.3%	29	4.0%	30	4.2%	14	2.0%

【出荷・販売段階】

（単位：万トン（玄米））

年産	出荷・販売		農協					全集連系業者					生産者直接販売等			
	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合	数量	割合		
H16	636	72.9%	390	44.7%	350	40.1%	40	4.6%	20	2.3%	7	0.8%	13	1.4%	226	25.9%
17	653	72.1%	405	44.7%	352	38.9%	53	5.8%	22	2.4%	8	0.9%	13	1.4%	226	24.9%
18	631	73.8%	384	44.9%	320	37.4%	64	7.5%	21	2.5%	9	1.1%	13	1.5%	227	26.5%
19	632	72.6%	378	43.4%	308	35.4%	70	8.0%	21	2.4%	9	1.0%	13	1.5%	232	26.6%
20	636	72.1%	390	44.2%	303	34.4%	87	9.9%	21	2.4%	8	0.9%	14	1.6%	224	25.4%
21	624	73.7%	372	43.9%	294	34.7%	78	9.2%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	230	27.2%
22	594	70.0%	369	43.5%	285	33.6%	84	9.9%	21	2.5%	6	0.7%	15	1.8%	203	24.0%
23	604	71.9%	351	41.8%	266	31.7%	85	10.1%	21	2.5%	6	0.8%	15	1.8%	232	27.6%
24	616	72.3%	352	41.3%	273	32.1%	79	9.3%	21	2.4%	6	0.7%	15	1.8%	243	28.6%
25	626	72.8%	373	43.4%	293	34.0%	81	9.4%	22	2.6%	7	0.8%	15	1.8%	231	26.8%
26	616	73.1%	369	43.7%	285	33.8%	84	10.0%	24	2.8%	9	1.0%	15	1.8%	223	26.5%
27	579	72.5%	344	43.1%	258	32.3%	86	10.7%	22	2.7%	7	0.9%	14	1.8%	213	26.7%
28	582	72.3%	338	42.1%	252	31.3%	86	10.8%	22	2.7%	6	0.8%	16	1.9%	221	27.5%
29	569	72.8%	315	40.3%	234	29.9%	81	10.4%	20	2.6%	5	0.7%	15	1.9%	234	29.9%
30	576	74.0%	298	38.4%	219	28.1%	80	10.2%	19	2.4%	5	0.6%	13	1.7%	259	33.3%
R元	577	74.3%	308	39.7%	231	29.7%	77	10.0%	21	2.7%	6	0.8%	14	1.9%	247	31.9%
2	580	74.7%	312	40.2%	242	31.2%	70	9.0%	21	2.7%	6	0.8%	15	1.9%	246	31.7%
3	561	74.2%	303	40.1%	240	31.7%	63	8.4%	21	2.7%	5	0.7%	15	2.0%	238	31.4%
4	537	73.9%	284	39.0%	220	30.2%	64	8.8%	19	2.6%	4	0.6%	14	2.0%	235	32.3%
5	533	74.3%	279	39.0%	214	29.9%	66	9.2%	20	2.8%	4	0.6%	16	2.2%	233	32.5%

資料：農林水産省「作物統計」、「生産者の米穀現在高等調査」（22年産以降は「生産者の米穀在庫等調査」）、「農林業センサス」、「米穀の取引に関する報告」及び全国出荷団体調べ等を基に推計。

- 注：1）平成21年産までの推計に用いた「生産者の米穀現在高等調査」と22年産以降の推計に用いている「生産者の米穀在庫高等調査」では調査対象農家の定義が異なる（前者は10a以上稲を作付（子実用）している農家、後者は販売目的の水稻の作付面積が10a以上の販売農家が対象）ことから、22年産から推計手法を変更している。
 2）生産段階には、このほか、①集荷円滑化対策による区分出荷米（17年産8万トン、20年産米10万トン）、②品質低下に伴う歩留り減（22年産米10万トン）がある。
 3）ラウンドの関係で、計と内訳が一致しない場合がある。